

豊橋市自治連合会だより

第5号 発行部数 120,000部

発行 豊橋市自治連合会 平成24年3月29日発行
事務局 市民協働推進課内 TEL 51-2484
<http://www.toyohashijichiren.jp/>

ともに生き、ともにつくる



豊橋市自治連合会
会長 高木 繁



副会長
鈴木 佳和



副会長
村川 博美



副会長
鈴木 孝治

自治連合会長あいさつ

平素は自治会活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。また、昨年3月から5月にかけての東日本大震災の義援金募集の際には、皆様から温かいお気持ちをいただき、多くの義援金を被災地へ送ることができましたことを重ねてお礼申し上げます。

さて、「総代会」から「自治会」へと名称変更し、5年目を迎えた本年度は、交通安全、外国籍市民との共生など目前に山積する問題の見直しや合理化を図る一方、東日本大震災を受け、危機管理体制の強化に取り組んでまいりました。その第一段階として、各校区の自主防災組織の実態調査を行い、災害発生前の準備段階から、発生後の避難所運営に至るまでの様々な過程における問題の把握に努めるとともに、情報共有を図り、防災意識をより高めるなど、各校区の危機管理能力の底上げを目指しました。

地域防災力の強化は、先送りにすることの出来ない喫緊の課題であります。今後も行政との連携を深め、地域防災力はもとより、安心して暮らせる住みよいまちづくりのため、地域力の一層の強化を図つてまいります。

地域のことは地域のみんなで治めていく、自主的な住民自治組織が自治会であります。これまでも、これからも主役である住民の立場に立つた自治会運営を基本に、皆様と一緒に安心・安全なまちづくりを進めていきたいと考えております。

価値観や生活様式の多様化などにより、地域の連帯感の希薄化が進み、活動の担い手不足など地域の負担が大きくなっている昨今、皆様の一層のご支援とご協力並びに、更なる自治会活動への参画をお願い申しあげまして、ごあいさつとさせていただきます。

平成23年度

定期大会開催 提言「23定期大会」を採択



提言「23定期大会」

- ①自治会運営の透明化の推進
- ②効果的・効率的な自治会活動の推進
- ③組織の強化と地域「ミユニティ」の充実

平成23年6月24日（金）豊橋市公会堂にて、本年度の定期大会が、多数の来賓ご臨席のもと、盛大に開催されました。高木連合会長の「東日本大震災義援金に対する各校区自治会の取り組みへのお礼」と、特に本年度は「危機管理体制の強化」に全力をあげて「こう」とのあいさつで幕を開け、永年にわたり校区自治会長（5名）、町校区自治会長（23名）、町自治会長（219名）へ感謝状が贈呈されました。続いて、平成22年度の事業報告と決算、本年度の事業計画と予算が報告されました。さらに、「ともに生き、ともにつくる」を目指すことが盛り込まれた提言「23定期大会」が確認されました。

その後、本年度から副市長に就任された、有安敬氏の「我が国が都市交通システムとLRT」と題した講演がありました。新都市交通システム開発の具体例を示され、本市の公共交通機能の充実と活性化を図るために自治会と協働で進めたいと話をされました。

最後に、「地域の力を結集し、地域づくりを進めていく」ことを、参加者全員で力強く確認し、閉会しました。

市長からの言葉



豊橋市長 佐原光一

平素は市政にご理解、ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。また、地域における皆様方の並々なるご尽力に対しまして、心から敬意を表します。

さて、本市では本年度から「ともに生き、ともにつくる」の基本理念のもと、「第5次総合計画」がスタートし、「輝き支えあう水と緑のまち・豊橋」を目指すまちの姿として、新しい時代にふさわしいまちづくりを進めてまいります。

とりわけ重点的な取組みの一つである「地域力の強化」は、まちづくりを推し進める上で不可欠であり、そのためには、地域コミュニティにおける連携を図り、市内全域において地域主体の活動を活発化していくことが必要となります。

明るく住み良いまちづくりは、行政だけでは実現することはできません。従来にも増して、自治連合会の皆様と行政が手を携えて、市民協働を推進していくことが「地域力の強化」に繋がるものと考えております。

今後とも、豊橋市のまちづくりの重要なパートナーとして、市政へのご支援とご協力ををお願い申し上げます。

要望書提出

平成23年9月22日に、自治連合会は市へ要望書を提出しました。これは住民の意見を行政に広く反映させ、住民目線でのまちづくりを目指すため提出されたもので、今年度の内容は次の4項目です。

- ①大震災時など災害対策の充実について
- ②消防団について

・団員確保策と支援策

- ③河川の親水護岸の整備と洪水対策について

④教育について

・コミュニケーション教育の充実

・教育環境の見直し



左：高木会長 右：佐原市長

豊橋まつり 華やかに彩るクイーン

東三河の一大イベント、「第57回豊橋まつり」が、10月15日、16日の両日に開催されました。

●視察記

8月に理事、11月に常任理事による

管外視察を行いました。

【理事管外視察】

●宝塚市ほか

歌劇のまちとして有名な観光・文化都市宝塚市も、近年は大阪や神戸のベッドタウン化が進んでいるようです。

そんな宝塚市自治会連合会の抱える課題には、本市と重なるものが少なくあります。せんでしたが、解決のための創意や努力には、学ぶべきことがたくさんあったように思います。

主な活動内容として、

・広報誌『M'sたからづか』を年2回発行し、豊富な内容で活動の様子を市民に丁寧に知らせていること。

・研修班制度を設けて、各分野の課題の掘り起こしと対策を検討していること。
・マンション住民の加入促進のため、毎年『マンション自治会結成・加入促進の説明会』を実施し、「住民の安心・安全な生活を守る自治会」の姿勢を強くアピールしていること。

・毎年『新自治会長研修会』を開催し、活動の理解を深めてもらっていること。

等々、示唆に富んだ取り組みを、いろいろ紹介していただきました。また意見交換に披露していただきました。

この場では、阪神淡路大震災の被災者の体験から、防災にかかるいろいろな話を率直に披露していただきました。
「まつりごと」（＝イベント）を開き人



宝塚市視察のようす

なる促進を図つてまいります。
今後も、住民と行政とのパイプ役である自治会が、地域の声を直接行政へ届け、市民協働の更なる促進を図つてまいります。

淡路島では、まず新設されたばかりの「福良港津波防災ステーション」を見学しました。建物の外観には驚かされました。「伝え」「学ぶ」ための施設としては、よく工夫されているように感じました。

「北淡震災記念公園」では、修学旅行の中学生の団体に出会いました。大震災の惨状を幾世代にも語り継いでいく「もの言わぬ語り部」として、これからも大切にしたい施設だと、改めてそんなことを思いました。

初日の早朝、台風のような大候で開催が危ぶまれましたが、開会式のころになると雨も小降りになり、三菱レイヨン(株)豊橋事業所提供的深紅の衣装を身にまとうクイーンの登場に、会場は拍手喝采いで、開会式を盛り上げました。その後は、悪天候により予定を一部変更したものの、つじ荘やここに等の各会場において、若さ溢れるダンスを披露し、いっぱいの歓声とフラッシュに包まれました。また、市民総おどりでは、前年のクイーンも加わって、豊橋から発信する夢と希望の想いはクイーンの明るい笑顔と素晴らしいダンスから——と、まつり初日の興奮は最高潮に達しました。

2日目は晴天に恵まれ、訪れた多くの市民の前で、前日のうっぷんを晴らすかのような素晴らしいパフォーマンスに、ひときわ注目を浴び、まつりを華やかに彩りました。

「市民参加」が最大の特徴である豊橋まつりに、今後も自治会として積極的に参加し、まいに盛り上げてまいります。



市民総おどり（駅前大通）



パレカ（広小路一丁目）



交通安全キャンペーン（豊橋球場）



執行部とクイーンの記念撮影



金沢市視察のようす

「3・11」以降は金沢市でも防災活動に入促進策として「集合住宅コミュニティ条例」「学生のまち推進条例」等があることと自治会活動の拠点となる地区公民館の運営方法の2つです。

「集合住宅コミュニティ条例」では、集合住宅住民と事業者の双方に、コミュニティスペース賃貸料や整備費を補助して場所の確保をサポートし、「学生まち推進条例」では、学生が町会をはじめとする地域活動等に参加し易くするための工夫がなされています。

地区公民館は地区市民館とともにあり、豊橋市の

また、自主防災組織も類似しており、「3・11」以降は金沢市でも防災活動に力を入れ、見直しを図り、「安否確認板」「地域防災マップ」作成にも補助を出している

相違点として目についたのは、自治会加入促進策として「集合住宅コミュニティ条例」「学生のまち推進条例」等があることと自治会活動の拠点となる地区公民館の運営方法の2つです。

※このほか、11月10日に千葉県船橋市自治会連合協議会が豊橋市へ研修視察に訪れ、それぞれが抱える課題等について意見交換をしました。

【常任理事管外視察】

●金沢市

金沢市は、戦災や大災害を免れたため、藩政時代の美しいまちなみが残り、その歴史や伝統文化が数多く受け継がれている人口約45万人の北陸の中心都市です。

自治会組織は、町会・校下・地区町会連合会、市町会連合会となつており、豊橋市と類似しておりますが、町会数は豊橋の約3倍と多く、各町の世帯数は小規模です。

また、自主防災組織も類似しており、

「3・11」以降は金沢市でも防災活動に力を入れ、見直しを図り、「安否確認板」「地域防災マップ」作成にも補助を出している

相違点として目についたのは、自治会加入促進策として「集合住宅コミュニティ条例」「学生のまち推進条例」等があることと自治会活動の拠点となる地区公民館の運営方法の2つです。

「集合住宅コミュニティ条例」では、集合住宅住民と事業者の双方に、コミュニティスペース賃貸料や整備費を補助して場所の確保をサポートし、「学生まち推進条例」では、学生が町会をはじめとする地域活動等に参加し易くするための工夫がなされています。

地区公民館は地区市民館とともにあり、豊橋市の



味噌蔵公民館視察のようす

「金沢方式」と呼ばれる方法で、地元が建設費・運営費の $\frac{1}{4}$ ($\frac{3}{4}$ は市)を負担し、地域主導で経営者感覚を持つて運営しています。中には、デイサービス、私立保育園、老人憩いの家等を併設しています。

その他にコミュニティの特徴として挙げられるのは、善隣思想に基づいた善隣館、信仰心・自然条件・城下町の産業等から生まれた独特的の町会・消防ポンプ車の購入費や格納庫建設費にも地元から寄付金を募る義勇消防等があります。これらの古くから培われた豊かなコミュニティの土壤があるためか、犯罪や火災が少なく、治安がとても良いまちです。

しかし、少子高齢化、生活スタイルや価値観の多様化により、かつての市民相互の連携感や地域社会への関心も希薄になり、金沢市でも地域住民の繋がりが弱りつあります。こうした中、福祉、子育て、防災、環境などを担うNPOなどの組織と地域の組織が連携・協力することによる新たなコミュニティの創造を模索しているところです。参考になることが多い、有意義な視察でした。

● ● ● 地域の活動 ● ● ●

住みよい暮らしづくり計画

住みよい暮らしづくり計画とは、小学校区単位で、そこに暮らす人たちが中心となるために、「何が必要か」「何をしていくのか」ということをまとめた計画です。これまでに、モデル校区として、新川、吉田方、杉山、下地の4校区で計画づくりが進められてきました。今号では、吉田方校区の取り組みを紹介します。

吉田方校区の取り組み

吉田方校区では、校区内15の各種団体から委員を選出し、住みよい暮らしづくり委員会を立ち上げ、「交通安全」、「防犯」、「防災」の3つのグループに分かれ、安全安心・快適な校区を目指してそれぞれ次の目標を掲げ活動しています。

交通安全グループ

まちづくり

子どもを守る安全なまちづくり

防災グループ
何時起ころか分からない災害に備えたまちづくり

各グループがその実現

に向かって取り組んでいま

すが、まだまだ問題点

も多く、冬芽からの一步

という状態です。これか

らも地域力の向上にむけ、躍進していきます。



交通安全パレード



土曜ひろば(羽根井校区)



体育祭(岩田校区)



わくわくサマー・ホリディ(松葉校区)



三ツ口池クリーン作戦
(石巻校区)



文化フェスタ芸能発表会
(幸校区)



防災訓練(八町校区)

みんなで楽しく参加 地域イベント

それぞれの地域では、地域のコミュニティが主体的になって実施するさまざまなイベントが開催されています。こうした住民同士の交流の場を設けることで、地域社会の活性化が図られています。

重点推進項目

一 明日の豊かなまちづくり

◇市民館を拠点に地域のコミュニティ活動の実施など

二 安全で明るい市民生活を築くまちづくり

◇街頭立ち番の実施による交通安全市民運動や防犯活動の推進など

三 青少年が健康で明るく育つまちづくり

◇パトロールの実施、非行防止活動など

四 地震等災害から市民を守るまちづくり

◇危機管理体制の強化

◇自主防災会の充実と防災意識の高揚など

（総合防災訓練への参加など）

五 美しく住みよい緑のまちづくり

◇5・30運動や愛市憲章の実践と啓発など

六 快適な暮らしきをを目指すまちづくり

◇資源・エネルギーを大切にするための自主的な活動の推進など

平成23年度 豊橋市自治連合会事業報告

アンケートによる情報交換を実施
～業務検討委員会より報告～

業務検討委員会では、諸課題への対応、自治会活動の実態調査、問題点の分析・検討等の作業を行っています。

今年度は「校区自主防災組織」と「子ども会」について、各校区自治会へのアンケート調査を行い、各地域の現状を取りまとめて、情報交換の資料として活用しました。

なお、アンケート結果は、自治連合会のホームページで見ることができます。

町自治会役員の皆様のご協力のもと、会員の皆様方から温かいお気持ちをいただき、豊橋市自治連合会として多くの義援金を集めることができました。誠にありがとうございました。

集まった義援金については豊橋市福祉政策課を通して日本赤十字社に届けさせていただきました。

東日本大震災義援金のお礼

63,751,507円を被災地へ

編集後記

家族・住民・地域の絆の大切さが再認識されている今日、地域活動の中心を担う自治会の果たす役割はますます大きくなっています。

この「自治連合会だより」を通して、日頃の自治会活動を知つていただき、新たな絆づくりの場として、皆様の積極的な自治会への参加をお待ちしております。

【編集委員】
鈴木 佳和太郎
三井新章
夏目純宏
大野一郎
地宗一郎